

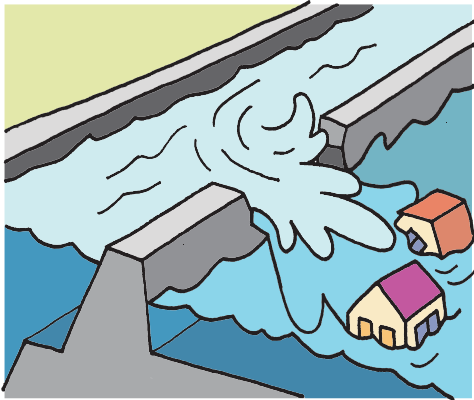


水害発生メカニズム

洪水の氾濫形態

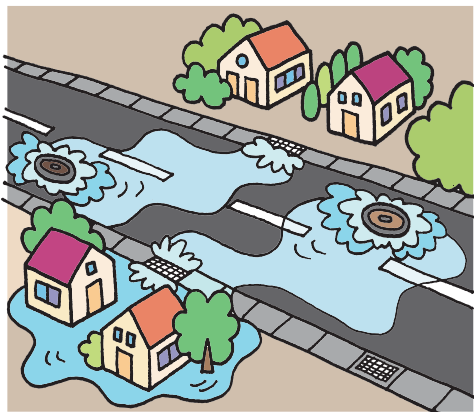
洪水には、川の堤防が壊れたり堤防から水があふれたりして発生する外水氾濫と、降った雨が水路や下水道などで排水しきれなくなるにより起こる内水氾濫があります。まずは洪水の発生する仕組みを理解して、あなたが住んでいる地域ではどちらの洪水の発生リスクがあるか確認しておきましょう。

外水氾濫・内水氾濫とは



外水氾濫

外水氾濫とは、河川そのものの水位が上昇して起こる水害のことです。大量の水が速い速度で市街地へと一気に流れ込み、わずかな時間で住宅などへの浸水や人的被害が発生します。また、流れ込んでくる水は泥水であり、洪水が収まった後も土砂や汚泥が堆積するため、復旧に時間がかかります。



内水氾濫

内水とは市街地に降った雨のことで、雨水の量が都市の排水能力を超えると内水氾濫が発生します。通常なら内水は下水道の雨水管やポンプ施設によって河川へと排水されますが、施設の能力が雨量に追いつけなかったり、外水の水位が上昇して排水できなくなったりすると、内水の水はけが悪くなって建物や土地、道路などが水につかってしまいます。

洪水の浸水深の目安

